

【主イエスの愛と恵みを受けとめる為に】

【聖書箇所①】マルコ 5 章 21 節～34 節

5:25 ところで、十二年の間長血をわずらっている女がいた。5:26 この女は多くの医者からひどいめに会わされて、自分の持ち物をみな使い果たしてしまったが、何のかいもなく、かえって悪くなる一方であった。5:27 彼女は、イエスのことを耳にして、群衆の中に紛れ込み、うしろから、イエスの着物にさわった。5:28 「お着物にさわることでもできれば、きっと直る」と考えていたからである。5:29 すると、すぐに、血の源がかれて、ひどい痛みが直ったことを、からだに感じた。

5:30 イエスも、すぐに、自分のうちから力が外に出て行ったことに気づいて、群衆の中を振り向いて、「だれがわたしの着物にさわったのですか」と言われた。5:31 そこで弟子たちはイエスに言った。「群衆があなたに押し迫っているのをご覧になって、それでも『だれがわたしにさわったのか』とおっしゃるのですか。」5:32 イエスは、それをした人を知ろうとして、見回しておられた。5:33 女は恐れおののき、自分の身に起こった事を知り、イエスの前に出てひれ伏し、イエスに真実を余すところなく打ち明けた。5:34 そこで、イエスは彼女にこう言われた。「娘よ。あなたの信仰があなたを直したのです。安心して帰りなさい。病気にかからず、すこやかでいなさい。」

【長血】

婦人特有の、血が流出する病気。この病気は、旧約聖書のレビ記 15:25～30 には、汚れた者とみなされ、人中出现する事が禁じられていた。

【聖書箇所②】 マタイ 18 章 19 節～20 節

18:19 まことに、あなたがたにもう一度、告げます。もし、あなたがたのうちふたりが、どんな事でも、地上で心を一つにして祈るなら、天におられるわたしの父は、それをかなえてくださいます。18:20 ふたりでも三人でも、わたしの名において集まる所には、わたしもその中にいるからです。

●私達は、主イエスに「_____」して、礼拝・諸集会に集ろう

主イエスの元には、婦人病の女性だけでなく、大勢の人が押し寄せ、主イエスに触れていた。しかし、この女性だけが、主イエスから特別な祝福を頂く事ができた。その秘訣は、彼女の“主イエスに対する信仰”にあった。

主イエスは、私達が“主イエスの名”によって、つまり“主イエスに期待して”集う中に、今も、共にいて下さり、特別に働いて下さると約束されている。

同じ礼拝に参加しているにも関わらず、ある人は「主イエスから特別な恵みを受け」、ある人は「あまりそうではない。」という事が起こる。その理由の一つは、私達の主イエスに対する“期待・信仰”にある。

私達は、礼拝に集る時に、この女性のように、主イエスが今日、私に特別な祝福を与えて下さると、期待して、賛美し、御言葉を聞き、祈る者となろう。

●私達は、神の約束を信じて、「告白」し続けよう。

『「お着物にさわることでもできれば、きっと直る」と“考えていた”からである。』と書かれているが、直訳すると、“言っていた”となっている。

聖書には、神の約束を信じて、告白する時に(告白し続ける時に)、神の恵み(神の力/約束)が現実化される事が書かれている。

私達も、この女性のように、神の約束を信じて、告白し続ける者となろう。

※参考:告白の重要性

- ・創世記 1 章/言葉によって創造された
- ・ヨハネ 11 章/ラザロの生き返り
- ・ローマ 10:10/人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです

【チャレンジしよう】

今日、特に心に残った事、決心した事を書きとめよう。
